

平成 27 年度京都府民の意識調査の結果について

府計画推進課

はじめに

京都府では、府政の指針である「明日の京都」に掲げた約 400 の施策指標に基づき、府の施策等の成果を測定・点検し、絶え間なく施策の見直しを行うことによって、「明日の京都」を推進することとしています。

一方で、これらの指標では測定しえない「子育てのしやすさ」「はたらきやすさ」といった、府民の皆さまの生活実感を測るために「京都府民の意識調査」を行い、「京都府社会が『だれもがしあわせを実感できる社会』に向かっているか」や「府政運営の方向性が府民の皆さまの意識とかけ離れたものになっていないか」などを点検しています。

この「京都府民の意識調査」の結果を統計データと併せて活用することにより、京都府では、「明日の京都」の 3 つの基本方向（「府民安心の再構築」「地域共生の実現」「京都力の発揮」）に基づく 17 の分野をもとに分析した現状・課題に基づき、重点的に取り組むべき課題を抽出し、予算編成等においてこれを活用して、次年度以降の施策展開を行っています。

ここでは、その「京都府民の意識調査」について、平成 27 年度に実施した調査結果の概要をお示しします。

なお、「明日の京都」の中期計画を改定し、平成 27 年 4 月から新たにスタートしたことから、その内容に合わせて、質問項目の一部の見直しを行っています。

1 調査の方法等

府内在住の 4,100 人（満 20 歳以上）を住民基本台帳から無作為抽出し、郵送で回答をいただきました。

抽出数の考え方は、次のとおりです。まず、平成 22 年実施の国勢調査の京都府の人口構成に比例するように 3,000 人を市町村別、性別、年齢階層別に配分しました。その上で、抽出数が少ないことによって調査精度が低下することを防ぐため、亀岡市以北の市町に 1,100 人を追加配分しました。

また、回答の集計に当たっては、国勢調査の人口構成（市町村別、性別、年齢階層別）と比例するように、再度、補正を行っています。

これらにより、本調査の精度を一定水準以上に保ち、調査の結果が府民の皆さまの生活実感と合致するようにしています。

2 結果の概要（資料参照）

（1）全体傾向

平成 27 年の調査（6 月実施）では、前回調査（平成 26 年 6 月）に比べて、9 項目で数値が上昇しました。また、「明日の京都」が目指す「だれもがしあわせを実感できる」京都府社会の姿により近いと 70% 以上の府民の方が実感しておられる項目は、14 項目ありました。

(2) 高い割合を示した項目

個別の項目をみますと、「これからも京都府に住み続けたいと思う人の割合」については、調査開始（平成23年度）以降、91～92%と非常に高い割合で推移しています。

このほかに高い割合で推移している項目としては、「子育てに喜びややりがいを感じている親の割合」(94%)、「住んでいる地域が、子どもが育つのによい環境だと思ふ人の割合」(78%)といった、子育てに関するものが挙げられます。

また、「子どもが将来に夢を持っていると思う親の割合」(82%)、「京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合」(82%)といった項目においても高い割合を示しています。

(3) 低い割合を示した項目

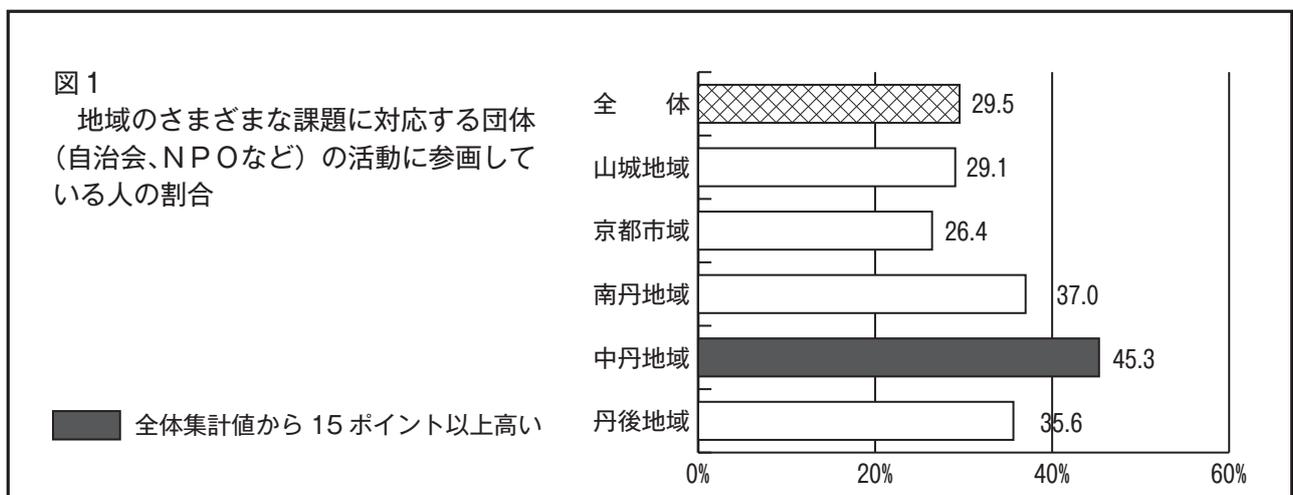
反面、「地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合」(25%)、「地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合」(32%)といった、防犯や災害への備えといった暮らしの安心に関する項目においては、前回調査と同様に低い割合を示しています。

そのほか、「府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合」(11%)、「外国人の友人や留学生との交流がある人の割合」(15%)、「障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合」(17%)といった項目においても、低い傾向を示しています。

3 属性による差異がみられる項目

(1) 居住する地域による差異がみられた項目

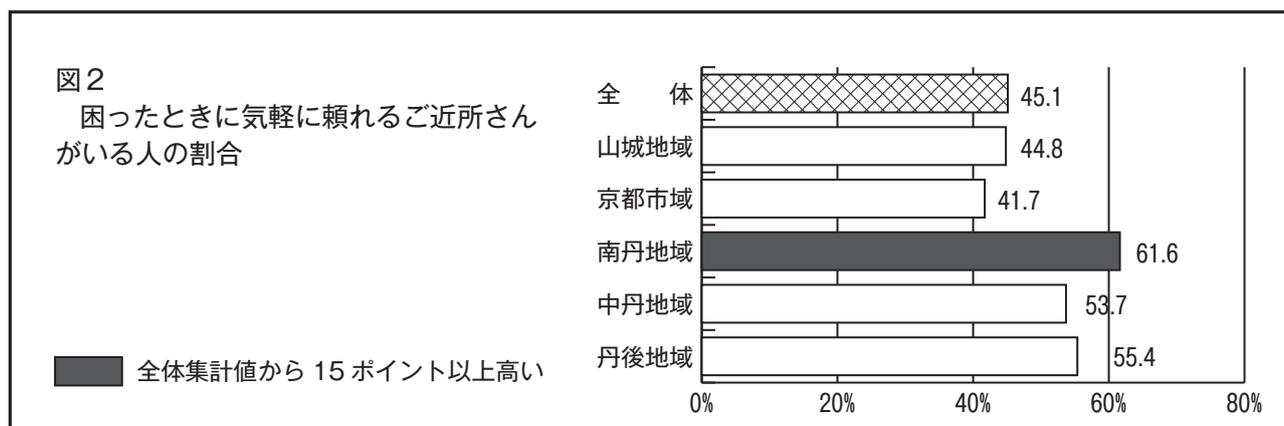
「地域のさまざまな課題に対応する団体（自治会、NPOなど）の活動に参画している人の割合」については、中丹地域において極めて高い割合（45.3%）を示しています（他の地域においては、26.4～37.0%。平均値は、29.5%）。（図1）



また、「困ったときに気軽に頼れるご近所さん
がいる人の割合」については、南丹地域において
高い割合（61.6%）を示しています（他の地域に

おいては、41.7～55.4%。平均値は、45.1%）。

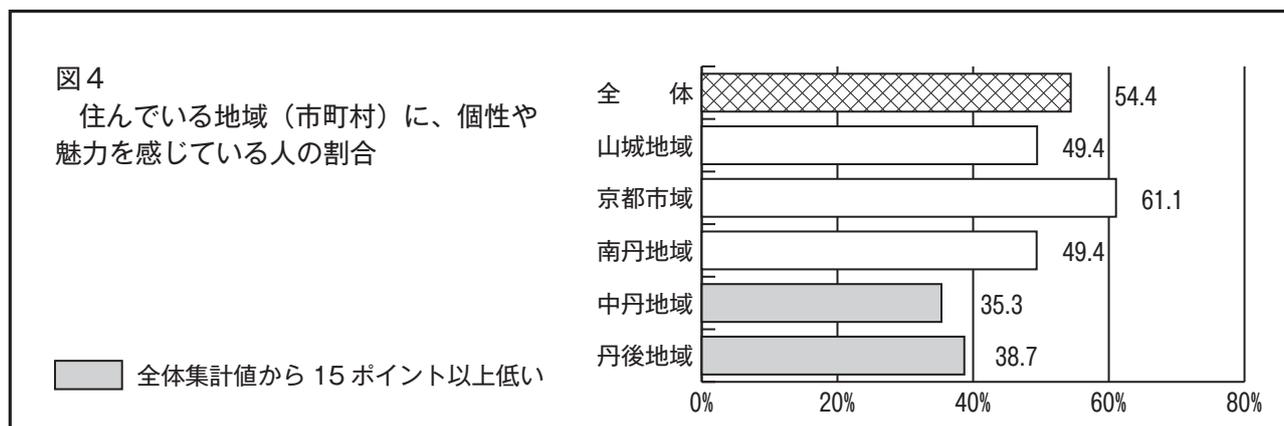
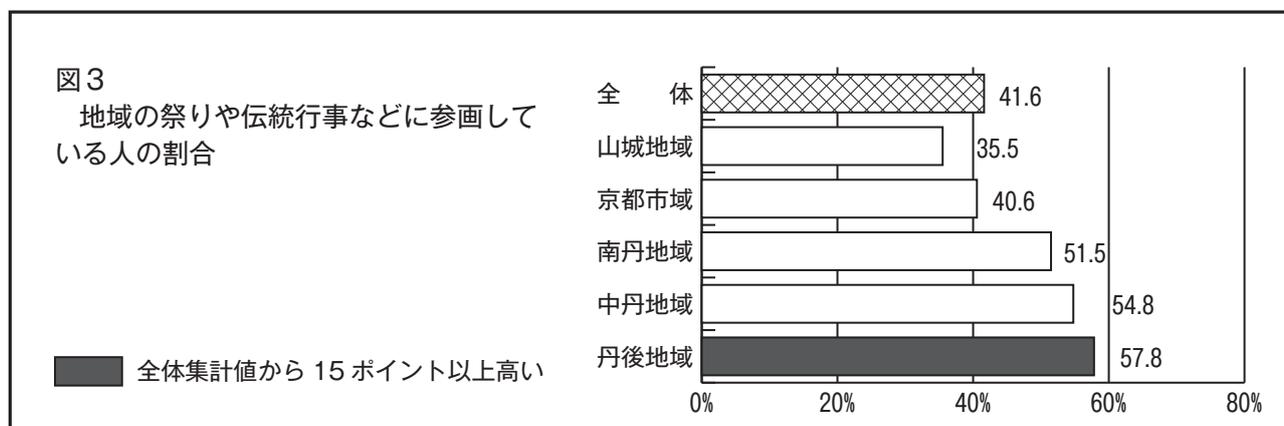
（図2）

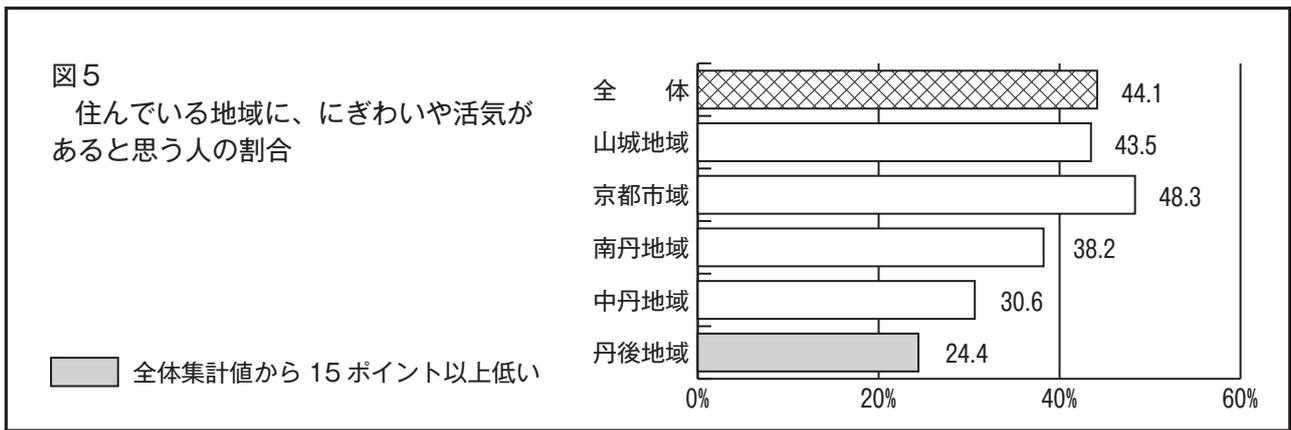


さらに、「地域の祭りや伝統行事などに参画し
ている人の割合」について、南丹・中丹・丹後地
域（51.5～57.8%）と山城地域・京都市域（35.5
～40.6%）で顕著な差異が見られました（平均値
は、41.6%）。 （図3）

その他、顕著な差異が見られた項目は、次のと
おりです。

- ① 住んでいる地域（市町村）に、個性や魅力
を感じている （図4）
- ② 住んでいる地域に、にぎわいや活気がある
と思う （図5）





(2) 年齢による差異がみられた項目

「規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合」については、70歳以上が最も高い割合（87.9%）を示しています（他の年齢層においては、58.4～79.4%。平均値は、70.9%）。（図6）

一方、「地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合」、「地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合」、「地域のさまざまな

課題に対応する団体（自治会、NPOなど）の活動に参画している人の割合」においては、他の年齢層に比べて、20歳代は特に低い割合となっています。（図7、図8、図9）

また、「節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合」は、20歳代から40歳代まで（52.2～66.0%）と50歳代以上（75.9～77.6%）とではその割合にひらきがみられま（平均値は、69.1%）。（図10）

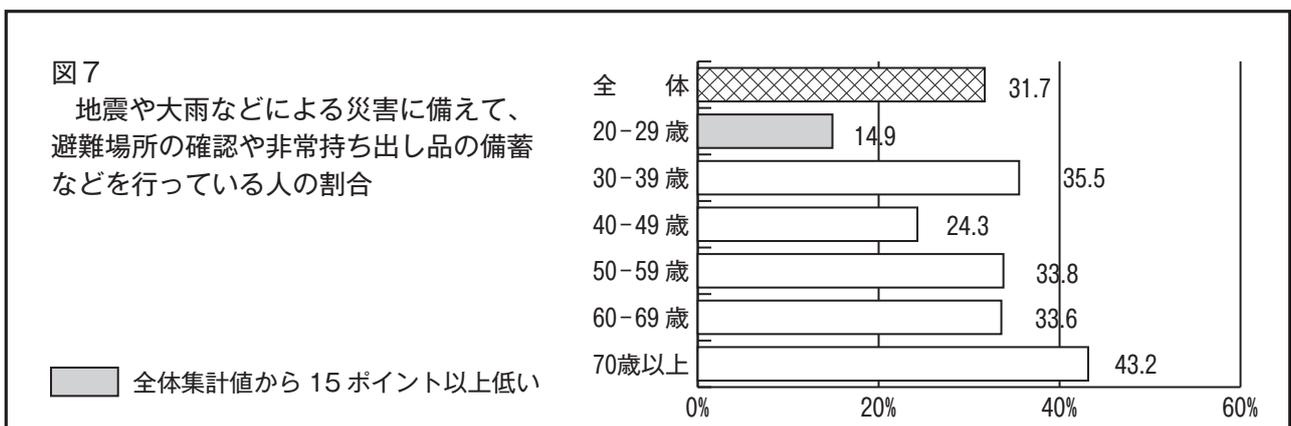
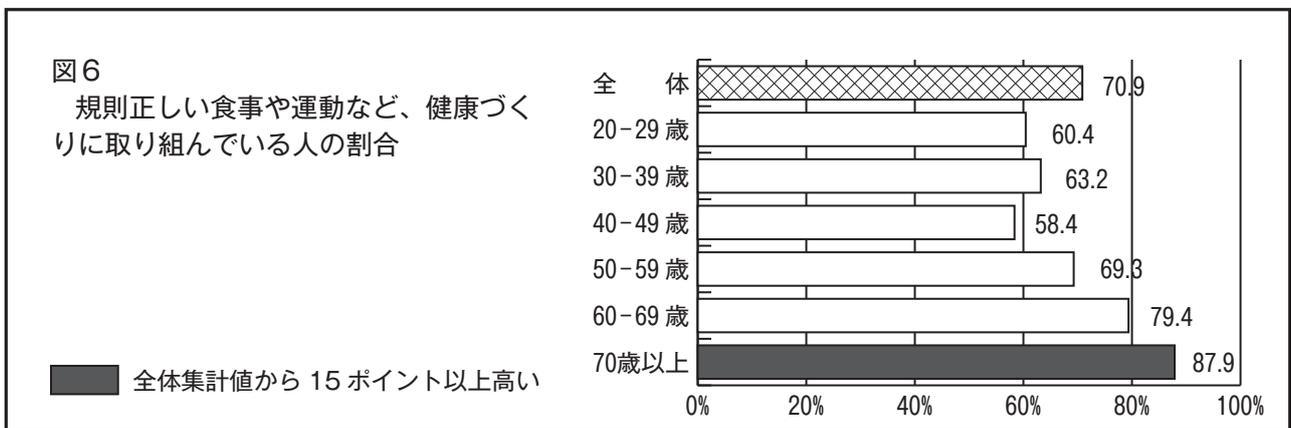


図8
地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い

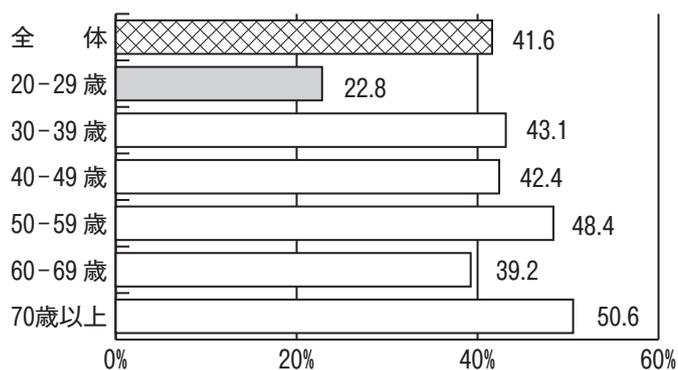


図9
地域のさまざまな課題に対応する団体（自治会、NPOなど）の活動に参画している人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い

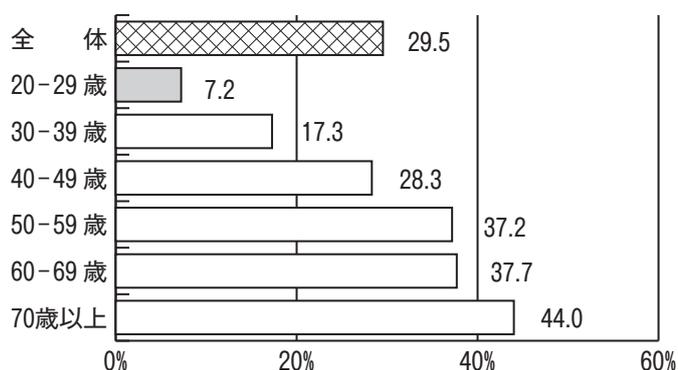
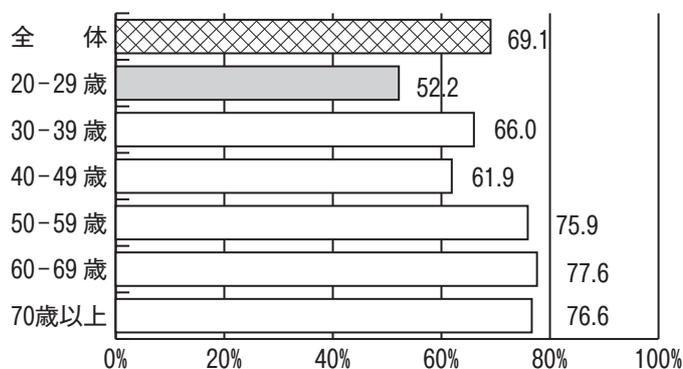


図10
節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合

■ 全体集計値から 15 ポイント以上低い



4 京都府への定住意向との相関関係が高い項目

京都府への定住意向の有無を尋ねる「これからも京都府に住み続けたいと思うかどうか」という質問項目と高い相関関係がみられた項目は、次のとおりです。

- ① 仕事にやりがいや生きがいを感じている
- ② 住んでいる地域（市町村）について、個性や魅力を感じている

- ③ 住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う
- ④ 親としての子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる
- ⑤ 住んでいる地域（市町村）が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思う

資料 京都指標「府民意識調査」結果（平成 27 年 6 月実施）

「明日の京都」の体系	「府民意識調査」項目	割合		推移	
		○70%以上 ×30%以下		○増 ×減 —横ばい	26年度 (割合)
府民安心の再構築	子育てに喜びややりがいを感じている親の割合	94	○	×	96
	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合	81	○	×	87
	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思ふ人の割合	78	○	×	81
	子どもが将来に夢を持っていると思ふ親の割合	82	○		
	子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参画している人の割合	31			
	キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合	45		○	44
	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	75	○	—	75
	希望する「働き方」（正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など）で働くことができる人の割合	78	○		
	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合	71	○	×	74
	病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合	61		○	60
	住んでいる地域に、最寄りの診療機関またはかかりつけ医へ行くための交通手段（電車、バス等）が十分に整っていると思ふ人の割合	72	○	○	69
	障害のある人とない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合	17	×	×	18
	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	61		○	60
	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	50		○	45
	住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思ふ人の割合	54			
	地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合	25	×	×	27
地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合	32		—	32	
地域共生の実現	日々の生活の中で、身体の状態、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合	85	○		
	この1年の間にインターネット（フェイスブックやツイッターなど）によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合	98	○		
	地域のさまざまな課題に対応する団体（自治会、NPO など）の活動に参画している人の割合	30	×	○	22
	府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合	11	×	○	10
	困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合	45		×	51
	住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思ふ人の割合	44			
	地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合	42		—	42
	今の社会（家庭・職場・地域社会などのさまざまな場）は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合	57			
	住んでいる地域について、個性や魅力を感じている人の割合	54		×	62
京都力の発揮	住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤（学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関）が十分に整っていると思ふ人の割合	73	○	—	73
	仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思ふ人の割合	51		×	52
	住んでいる地域（市町村）が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思ふ人の割合	70	○		
	節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合	69		×	71
	住んでいる地域で、地域の文化・芸術活動が活発に行われていると思ふ人の割合	45			
	京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思ふ人の割合	82	○		
	西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合	27	×		
外国人の友人や留学生との交流がある人の割合	15	×	○	13	
将来かなえたい夢や実現したい目標がある人の割合	62		○	53	
これからも京都府に住み続けたいと思ふ人の割合	91	○	—	91	
住んでいる地域の環境が、以前に比べてよくなってきていると思ふ人の割合	39				
全 37 項目		○ 14 項目 (38%) × 6 項目 (16%)		○ 9 項目 (24%) × 10 項目 (27%)	

※調査結果を「京都指標」として利用するために、「そう思う」・「どちらかというと思う」等と回答した人の割合を算出して記載している。